

磐城新報

發行日 五月廿五日、廿六日
編輯人 鈴木 尚 宣
印刷所 磐城新報社
發行所 磐城新報社
廣告料 (五) 五字一十行計
新聞定額 (一) 一月十圓四十錢
(二) 三月三十圓四十錢
(三) 半年六十圓四十錢
(四) 一年一百二十圓四十錢

はしがき

筆者は本紙の前号まで『産業合理化の常盤に對する影響』を述べた。筆者の進行予定は、上掲の論議に於て『合理化の本質』『合理化の常盤的表はれ』を記述する事に依つて、能ふ限り『合理化の爆露』に主眼を置いた。

その爲には、磐城入山争議以前の全常盤的な形勢を深く廣く且つ徹密に展開すべきである事を切感した。此處に若干の豫定を更へて山代吉宗君の論文を掲載するに決した所以に外ならざる争議前の情勢を具體的に公開する必要がある。

山代君は人を知る常盤地方左翼運動の輝ける指導者であり、全常盤の礦山労働者よりは慈父の如く慕はれたる人格者である。全君は彼の所謂『四、一六』に際して日立より檢舉され水戸形務所に投せられた。

身は固固にあつて一冊の参考書なく、書寫部屋の喧騒と制限された時間の中に叙述されたのが左の論議である。題は『磐城入山二大炭坑の争議経緯』であるが、之を章別すれば、
(A) 『磐城争議以前に於ける運動小史』
(B) 『磐城争議の顛末』

「入山争議の顛末」

の史的順序を追ふてゐる。常盤坑山労働者組合は、この傑出したる論文を雑誌『戦旗』に連續掲載させてゐるが或事情に依りB C Dのみを掲載に止めた。

未發表のAを本紙に掲げる事は常盤炭坑界を史的立場から明確な窺知が成し得、『合理化の常盤を識る』上に好適な許りでなく同時に亦『労働會』『無産黨』『賣國奴』等と何ぞ不逞視され勝ちな『社會運動家』を正しく知るために恰好な論議である事を信する。更

常盤地方坑山運動小史

水戸形務所に於て

山代吉宗

(A) 友愛會時代

一 常盤地方に友愛會の礦山支部が組織されたのは大正三年頃であると思ふ。磐城炭坑小野田坑に生長した僕が『友愛會』とか『労働會』とか云ふ名前を聞いたのは丁度其頃であつた。何でも鈴木文治が『友愛會』の説明に『ユー(You)は英語の汝』であり『アイ(I)は英語のアイ』であるから『ユーアイ會』と云ふのは、『お前と私』が仲よく手を取つて行く團體だと言ふた相手がそんな記憶も今に残つてゐるに過ぎない、而も封

支部の賛助員とか顧問の様な、社側に可愛がられな地位を有つてゐた。そして素直な量的發展をして支部長やその他の重要幹部友愛會は、一度戦後の反部には飯場頭のような立ち振舞ひに際し、脆くも瓦解しかつたと言へば會社側に縁の始め彼の有名な日立事件一近連中がなつてゐた。轉機として資本の攻勢益々殊に當時は歐州大戦中であつた、遂に常盤より友愛會の生活も益々向上する許たのだ。

本紙來號内容豫告

- ◎ シンキローの磐城の内幕
- ◎ 常盤地方礦山運動小史(二)
- ◎ 新聞の新聞
- ◎ 農業漁業問題に就而
- ◎ 磐城時評一束
- ◎ 其他等々

高潔の士

遠藤總三郎氏

氏の今日は豊間村に於て最も重きを爲し村議として村治に干與し這般消防組頭に推されて克くその任を司り更に漁業組合の理事たり漁業興産に努めたる功績顯著にして將來同村漁業組合長たるべき人である。彼の紛々たる同組合職事件に際しては廓正浄化に寧日なく奔走し、以來いやが上にも信頼と職望隆々として氏の人格を高揚せしめた村政産業一つとして氏の力を假らざるなく懸つて氏の双肩にある。天資聰明の氏は事に處する

大村屋旅館

電話一七五

馬目酒店

電話二五四

暑中御伺ひ申上候

青	伊	福	小	諸	諸	高	助	郡	比	安	金	山	山	鷺	野	鈴	古	木
沼	藤	尾	野	橋	橋	木	川	司	佐	島	成	崎	崎	清	崎	木	川	村
銚	淺	伊	晋	元	久	保	新	二	昌	重	通	登	平	昇	藏	辰	傳	清
太	之	太	平	三	太	三	三	郎	平	三	郎	郎	郎	郎	郎	郎	郎	治

鈴木默鐘君

家族救援贊助芳名(三)

鈴木默鐘君の筆禍に發端し御贊助芳名は吾が經濟新報で下獄したのは五月廿二日に上掲し感謝の意を表す。である、以來既に二ヶ月は鈴木默鐘君家族救援會

不況のつぼの中に同君の家族は不如意を感じてゐる雄々しくも行商に勵む妻君の賣上のみを以てしては子息の學費にも充たぬ、從來有志各位の絶大なる御援助を蒙り家族生活の補給を爲し得た事に對し、各位に深謝を捧げるものである。同業の諸氏、有志交友の各位に對し更に一層の御援助を請ひ家族救援の實を擧げて貰ひ度い。

出獄の曉、必ずや鈴木君は各位への報恩を忘れないであらう。

井上貞次郎殿 熊謙次郎殿 高倉精一殿 山村藥局殿 山家メリヤス店殿 江口忠一殿 助川新三殿 森合義男殿 金成三殿 下山田武助殿 瀨尾藥局殿 山崎清三殿 佐川三良殿 鈴木政次郎殿 志賀寛殿 大森勇殿 岡田政次郎殿

暑中御伺

石城銀行組合 平町料理屋組合 平町妓屋組合 平町三業組合 平町理髮業組合 平町西洋料理屋組合 磐城炭礦株式會社 入山採炭會社坑務所 古河好間礦業所 小田炭坑萩原坑業所 三井鑛山株式會社湯本礦業所

暑中御伺

警報センター特約販賣店

和洋銅鐵金物問屋

釜屋商店

平町五丁目 電話九番一三九番

釀造元

銘酒 清世界

小野普平

小名濱 電話六番

三井吳服店

電話二三八八番

内科 小兒科 花柳病科 入院 隨意

藤沼醫院

平町紺屋町 電話五〇七番

胃腸梅毒

科内 腸指二十 科内 専門 皮膚病 婦人病 淋病 専門 外科 部科 院醫村松 胃腸病 性病 番七〇一話電 町南平

療

御誂への染物は技術 本位の

新東屋染物店

小名濱町西町 萬作

大平屋藥店

店主 園部圓安 番

高木調髪所

高木貞雄

昭和タタキ

澤正路 電話三四三番

和久井屋

平町二丁目 電話四〇五番

田町大通

電五三五番

平町會議員

同

關内藥局

電四〇番

若竹

小名濱 電二五番

東部電力株式會社

平營業所

乾才糖小路

書店 電三二五番

小野屋藥店

平町四丁目 電四四四番

清水屋書店

平町二丁目 電百三番

第廿營業報告

壹期營業報告 昭和五年上半年期 貸對照表

資對照表

未拂込資本金 三、七五、〇〇〇

線路屋内工作物 五、六、八、八

機械器具貯藏品及 一〇七、二五、三

土地建物什器 七、五、二、六

有價證券 七、五、二、六

受取形未收入金 二、七、三、二

發售所勘定 一、五、五、九

變電所勘定 一、五、五、九

化學工業部勘定 一、五、五、九

合 計 六、七、六、六

負債之部

資本金 五、〇〇〇、〇〇〇

諸積立金 一、七、一、〇

假 受 金 七、〇、一、〇

借入金 二、五、〇、〇

支拂手形及未拂金 一、二、八、五

未拂配當金 三、〇、八、二

諸税金引當 一、〇、二、七

當期利益金 四、八、九、九

合 計 六、七、六、六

右之通候也

昭和五年七月

植田水電株式會社

田町

大崎幸七郎

湯本町電話一〇二番

大平牛乳舍

右ノ通りニ候也

昭和五年六月

株入山採炭會社

小名濱水產株式會社

昭和五年六月三十日

右之通り相違無之候

株入山採炭會社

小名濱水產株式會社

昭和五年六月三十日

右之通り相違無之候

株入山採炭會社

小名濱水產株式會社

昭和五年六月三十日

右之通り相違無之候

株入山採炭會社

小名濱水產株式會社

昭和五年六月三十日

右之通り相違無之候

第七決算報告

自昭和四年拾二月壹日 至昭和五年五月卅壹日 貸對照表

資對照表

未拂込株金 六、〇〇〇、〇〇〇

法定積立金 七、五、〇〇〇

別途積立金 二、五、〇〇〇

社員其他積立金 一、八、九、九

未拂配當金 一、〇、八、〇

保證預金 一、〇、八、〇

諸預金 一、〇、八、〇

支拂手形 一、〇、八、〇

入倉礦業會社 一、〇、八、〇

前期繰越金 一、〇、八、〇

合 計 一、〇、八、〇

負債之部

資本金 一、〇、八、〇

借入金 一、〇、八、〇

支拂手形 一、〇、八、〇

未拂配當金 一、〇、八、〇

諸積立金 一、〇、八、〇

假 受 金 一、〇、八、〇

借入金 一、〇、八、〇

支拂手形 一、〇、八、〇

未拂配當金 一、〇、八、〇

諸税金引當 一、〇、八、〇

當期利益金 一、〇、八、〇

合 計 一、〇、八、〇

右之通候也

昭和五年六月

株入山採炭會社

小名濱水產株式會社

昭和五年六月三十日

右之通り相違無之候

株入山採炭會社

小名濱水產株式會社

昭和五年六月三十日

右之通り相違無之候

株入山採炭會社

小名濱水產株式會社

昭和五年六月三十日

右之通り相違無之候

株入山採炭會社

小名濱水產株式會社

昭和五年六月三十日

右之通り相違無之候

株入山採炭會社

小名濱水產株式會社

昭和五年六月三十日